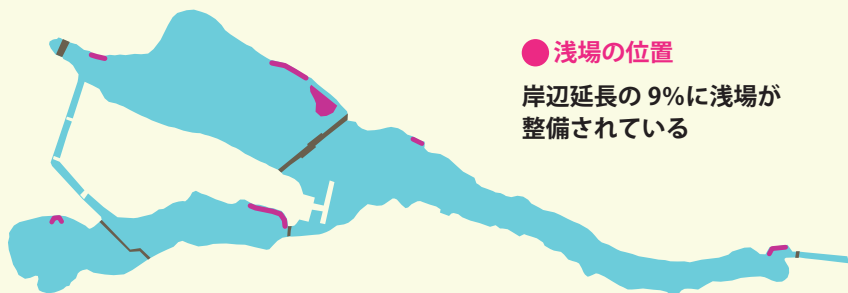


約30種が
生育!

湿地の植物が見られる 井の頭池

井の頭池の岸边にある「浅場」は、さまざまな湿地の植物が生育する生物多様性の高いスポットだ。今号では浅場整備の取組と、そこで見られる湿地の植物を紹介する。



● 浅場の位置

岸边延長の9%に浅場が整備されている

かいぼりで生まれた浅場
井の頭池では2014年から2018年に行った3回のかいぼりの際に、水辺再生の取組として浅場の整備・再整備を行った。浅場は、コンクリート護岸の前面に木枠を造り、池底の土を充填して水深を浅くした場所だ。池に水が無い期間を利用して専門業者が基盤を造り、地表の微地形を市民参加イベントで整えた。
浅場は水面から上下5cmくらいの高さで、湿地の植物の生育に適した環境になっている。

埋土種子からの発芽

浅場では湿地の植物が約30種確認されている(外来種を除く)。これらの大部分は、種子や孢子から自然に生えてきたものだ。

湿地の植物には、洪水で土砂に埋没するなどして生育に適さない環境になると、種子が休眠するものがある。井の頭池でも、かつて生育していた植物の種子等が、池底から浅場へ運ばれたことによって休眠から覚めたと考えられる。

水辺の植物には、埋立や、湿地が放置されて数や陸地になったことで減少している種がいる。こうした中、園内に新たな湿地環境が生まれ、さまざまな植物が生育するようになったことは特筆に値する。

*トチカガミなど一部の種では、施設で保管していた井の頭池産の個体を再導入している。



浅場整備イベントにはのべ296名が参加した(2018年)

大切な管理作業
 浅場は造った後も適切な状態に管理していくことが大切だ。大きな川や湖では、増水や波によって枯れ草などが運び去られて湿地の環境が保たれる。公園の池ではそうした自然の力が働かず陸地化しやすいため、草刈りなどの作業を行っている。作業イベント「チョコットかいぼり隊」は盛況で、大勢が湿地保全に協力している。



チョコットかいぼり隊『湿地再生編』2026年1月



マイ胴長を持って来た人や他県から来た人も！



湿地の植物の種類や観察ポイントを紹介したリーフレットです。これを持って浅場を見てもよい！公園案内所や池畔のチラシ箱で入手できます。



Topics

アメリカザリガニ防除 2025年結果報告

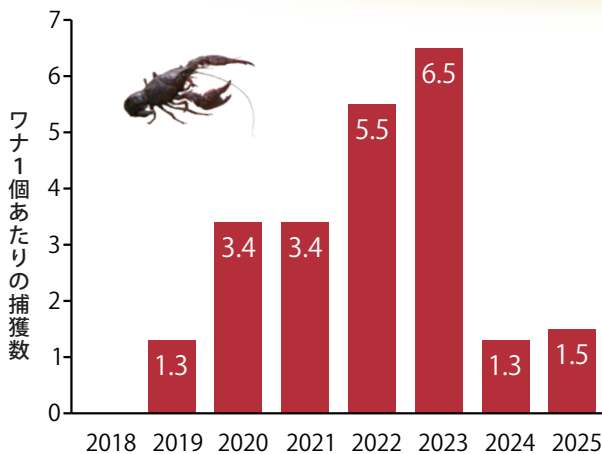


図. ワナ 1 個あたりの捕獲数の推移 (2018年から使用しているザリガニ BOX での比較)

井の頭池ではアメリカザリガニによる水草や水生生物への被害を防ぐ目的でザリガニ防除活動を行っている。2025年は井の頭かいぼり隊が約240個のワナを使用し、4月から10月の毎週、ザリガニを回収した。今期の捕獲数は合計8740匹だった。

2022〜2023年には年間捕獲数が23000匹以上だったが、その後は低密度で推移し、ワナには在来種のテナガエビやウキゴリの方が多く入っている状態だ。ただしザリガニは増加しやすい特性があるので、さらに低密度に抑えていくことが重要だ。来シーズンも引き続き防除に取り組んでいく。



冬の間にワナを補修するかいぼり隊



ザリガニ BOX の使用状況